

ウクライナの今

～ジャーナリスト玉本英子氏の
レポートと現地の声～

2024.12.14(土)

午後2時～午後4時

キッセイ文化ホール

3F 第2会議室

長野県松本市水汲69-2

参加無料
申込不要



◆玉本英子（たまもと・えいこ）プロフィール
東京生まれ 大阪在住の映像記者
94年よりアジアプレス所属。アフガニスタン、イラク、
シリアなど中東地域を中心に取材
ウクライナ取材は日曜スクープ（BS朝日）などで報告
今年は3か月間にわたり前線地域や戦火に生きる人びと
を取材した
第54回ギャラクシー賞報道活動部門優秀賞など

●第1部 映像ジャーナリスト 玉本英子氏（アジアプレス） 「ウクライナ 戦火の市民を見つめて」

ウクライナの激戦地で取材をした兵士や人々の苦悩を映像・写真とともにお伝えします



中部ウマニでのミサイル攻撃の現場で 亡くなった同級生の遺影に
ぬいぐるみを持ち寄っていた（2023年）



学校でダンスと劇の発表会 伝統衣装ヴィシヴァンカが美しい
子どもたちは常に戦争と隣り合わせの日常がある（2023年）

写真：玉本英子氏撮影

●第2部 ウクライナウジホロドの避難民とzoomトーク ～信州大学経法学部 美甘ゼミの皆さん

国内避難民であり、JCFの現地カウンターパートでもあるヤナ・ウリハネッツさんの生の声を
聞きながら、松本の若者たちと対話をします

お問い合わせ

JCF/日本チェルノブイリ連帯基金

TEL: 0263-46-4218

Email: asama@jcf.ne.jp



●ポリージャ南東部のオリヒウ。公立学校の校舎は崩れ落ち、教室がむきだしになっていた。
(2023年)
撮影: 玉本英子氏

映像ジャーナリスト/アジアプレス 玉本英子さんからのメッセージ

ロシア軍のウクライナ侵攻からもうすぐ3年が経ちます。ミサイルや砲撃による市民の犠牲が絶えません。ミサイルで破壊された集合住宅。命と生活が突然にして断ち切られたいくつもの現場を取材し、胸が痛みました。

前線地域に残るのは高齢者です。避難した子どもたちの多くは今もオンライン授業。攻撃から身を守るため、地下鉄駅構内にできた学校で勉強を続ける子どもたちもいます。

一方で、戦火のなかでも日常を取り戻そうとする若者たちにも出会いました。日本のアニメ・マンガを心の支えにするコスプレ少女や、韓国K-POPファンでダンスを続ける若者たち。戦争と隣り合わせのなか、心強くあろうとする市民の姿も見つめました。現地のように取材映像と写真で伝えます。いまウクライナで続いている戦争の現実を知るとともに、私たちと同じ時代を生きる人びとに思いを寄せていただければと思います。



JCF ウクライナカウンターパート ヤナ・ウリハネツツさん

ウクライナ西部のザカルパッチャ州ムカチェヴォ在住。ウジホロド神学アカデミーで英語教師を務める。また、ムカチェヴォカトリック教会でプロジェクトマネージャー、翻訳者も兼任。1児の母。

ウクライナへの侵略直後の2022年3月よりJCFのウクライナ支援の現地コーディネーターとして支援活動に尽力している。オデッサ、ハリコフ、キエフなどの激戦地から国内避難している人々、特に高齢者や乳幼児を抱えた家族のために食糧や生活物資を定期的に配布してきた。

現在JCFと共に、家族を失うなどして精神的にも傷ついた子どもたちや、戦争で苦しんでいる人たちのためのケアセンターの設置を進めている。

同時
開催

～ウクライナの子どもたちの絵画展～

入場無料

